

第4期第4回生涯学習センター運営協議会要旨

〔日 時〕 2018年9月18日（火）午後3：00～午後5：00

〔場 所〕 生涯学習センター 学習室2

〔出席者〕 ※敬称略

委 員：柳沼 恵一（会長）、岩本 陽児（副会長）、太田 まゆみ、大野 浩子
白崎 好邦、鈴木 忠道、陶山 慎治、辰巳 厚子、中里 静江
古里 貴士、向井 美子、米倉 茂
以上 12名

事務局：塩田センター長、田中担当課長、大野管理係長、松田事業係長、高木担当係長、
中野担当係長、岩田担当係長、植松担当係長、齊藤主任（記録）

〔傍聴人〕 2名

〔資 料〕・2018年度上半期事業報告

公民館事業 資料1

市民大学 HATS 資料2-1、2-2

ことぶき大学事業 資料3

生涯学習推進事業・施設貸出事業 資料4

- ・第2回生涯学習審議会会議概要
- ・東京都公民館連絡協議会 報告事項
- ・都公連加盟市・過去10年の公運審からの答申・提言のまとめ
- ・第3回運絵協議会で各委員から提案されたテーマについて

1 報告事項

（1）センター長報告

第3回町田市議会定例会の報告について

1、非核平和の啓発に関する一般質問について。生涯学習センターで毎年8月に実施している平和祈念事業及に關係する一般質問があった。なお、今年の平和祈念事業は無事終了し、9日間の開催で延1,499人の方にお越しいただいた。

2、生涯学習センターまつりのご案内について。生涯学習センターでは日頃当センターをご利用されている方の活動成果発表の場として、また団体同士のつながりを広げる機会として、毎年10月にセンターまつりを実施している。7階ホールではコーラス・ダンス・和太鼓・詩吟などの発表、また、他の会議室では書道・水墨画・生け花・パッチワークなどの作品が展示される。お子様向けのイベントなども行い、活動成果の発表とともに生涯学習センターを知っていただくきっかけづくりとなるように取り組んでいる事業である。日程は10月19日（金）から21日（日）の3日間。各委員におかれ

でもご都合がよろしければ是非お越してください。

(2) 町田市生涯学習審議会の議論について

7月の2回目の会議の冒頭で諮問書が手渡された。今までは2年間の任期の終わりに答申を出すということをやってきたが、これは非常に異例のことで、今回は文学館についてどうするかということ、7月会議で諮問を受けて8月会議である程度の議論をした。8月会議の様子を口頭で補足すると、まず事務局から7月会議の時の議論をふまえた形で答申のイメージというものが出され、このイメージに8月21日の会議の議論を盛り込むような形で9月の会議で答申案の確認をし、諮問に答えるという日程で進めている。話のポイントとしては市民参加型事業評価で点の辛かったものについて答申を取りまとめるという形で進めているが、生涯学習審議会の中では文学館を廃止という意見は出ていない。

<質疑・応答>

委員：答申案が9月ということだが。

委員：9月25日の9時半からの生涯学習審議会で答申案が出される。

委員：答申を出してそれが通ってしまうということか。要するに、あまりにも急に諮問が出て3か月で審議会の方々が答申として出し、それが市民の人たちの意見ということで通ってしまってよいのだろうか。(※補足 7月：諮問、9月：答申の最終案審議。)

委員：そのようなご意見が運協から出たということはお伝えする。

会長：どうしてそういうスケジュールになるのか、説明はあったか。

委員：先に結論があるからか。

センター長：審議会で諮問をかけて答申をいただくが、その答申の内容がそのまま意思決定されるということではない。文学館のあり方の検討の中で審議会からご意見をいただいたという位置づけである。確かに非常に短い期間で検討して考えをまとめ答申を出していただくということだが、それがイコール決定事項ということではない。

委員：できれば時間をかけてやって欲しいというのが意見である。

委員：補足です。10月以降生涯学習審議会で何を議論するのかということだが、事務局からは未定ということで、図書館、それから生涯学習センターといった具合に1つずつ諮問・答申を行うスケジュールではあるようだ。

委員：8月1日広報の別紙の1つに「公共施設の再編計画」があった。文学館について今年度決定するということだ。生涯学習センターの役割の明確化、事業内容の見直しについては、2020年とスケジュールを決めてやっているの、ここでの話し合いがどういう影響を及ぼすのか、ということが気になった。

センター長：こちらはホームページでもご覧いただける。生涯学習センターについては事業内容のあり方、管理運営手法のあり方について2021年度を目標に方針決定をすると

いう計画である。

会 長：そうすると、それに向けて具体的に動き出すのはいつか。

センター長：まだ具体的にはなっていないが、長いスパンの話ではないので順次検討に着手していく。

会 長：生涯学習センターのあり方については、十分な検討期間が取ればと思うので、また何かわかったら報告をいただきたい。

(3) 東京都公民館連絡協議会の活動について

委 員：30年度委員部会第1回研修会が9月1日に実施されたのでご報告したい。この研修会のテーマは「文部科学省組織改編と公立社会教育施設の所管問題から見える今後の公民館をめぐる課題」ということで、先ほどから生涯学習審議会の話が出ているが、それにも大いに関係する講演であった。各市の公運審メンバーとしても現在どういう流れになっているのか、ということに対してもっと深く理解したいという思いがあったので、日本社会教育学会会長で千葉大学名誉教授の長澤成次先生に講演をお願いした。参加者92名、アンケートの回答数72名という多さからも、関心が高く時宜を得た内容であったと考えられる。

来年の2月開催される第55回東京都公民館研究大会のメインテーマは「どうなる？ どうする？ 社会教育～連携・協働・参加の成果を発信しよう～」で、東大の牧野篤先生に基調講演をいただく。

「都公連加盟市・過去10年間の公運審からの答申・提言等のまとめ」を委員部会で作成した。資料としてお配りしたので参考にされたい。

<質疑・応答>

委 員：研修会の質問例についてわからなかったのだが、「公民館運営が首長移管になると市民のやりたい方向と別のベクトルになる恐れがあるので、大変重要な問題だ」という意見があったということか。

委 員：何が正しい意見ということとは言えないが、今までは学習のテーマというものを自由に選んできたところであったのが、独立した教育委員会から離れて選ばれた首長の傘下になると、その影響が出てくるのではないかと心配する声が出ている、ということである。

2 議題

(1) 上半期の事業分析

会 長：それでは最初に職員の方から資料について事前質問も含め説明をいただいた後、質疑応答を進めてまいりたい。

<公民館事業についての説明>

- ・まちチャレ・・・市民団体が発案者となり、生涯学習センターとともに講座づくりにチャレンジする事業。
- ・平和祈念事業・・・戦時資料の展示や講演会等を通して、戦争について考え次世代に語り継ぐ事業。
- ・家庭教育支援事業・・・乳幼児の保護者向け講座「未来をえがくママの楽校（学校）」等。
- ・障がい者青年事業・・・18歳以上の障がいのある方の集団活動の取り組み（公民館学級、ひかり学級、土曜学級）
- ・その他事業（コンサート事業）・・・まちだフレッシュコンサート等
（説明略）

<質疑・応答>

- 委員：青年学級は青年とあるが、参加者は何歳か。
- 委員：年齢の制限は設けておらず 50 代の方もおられ、平均年齢は 40 代である。新入生は学校教育を卒業した方たちで、その第 3 の場（家庭・作業所以外の場合）である。
- 委員：青年学級は 40 年以上続いている事業で、30 年以上前はボランティアさんも 20 代の学生さんが 9 割以上だった。
- 会長：ボランティアについても、何か良い策がないかということになる。
- 委員：歴史的に古いので、もとは青年だったのだが、ということであるが、ここはあえて青年に戻すべきだという考えがある。町田の丘学園の保護者の方とお話を聞くと、以前は、町田の青年学級は、そこで知り合って情報交換をする良い場であったが、町田の丘学園を卒業後、今では他のお母さん方との横のつながりの場がなくなってしまったという。以前のように町田で障がいを持ったお子さんのお母さんたちが、今まさに育てている親や子どもたちが、地域でつながっていくためには、青年という言葉を残しつつ実態を合わせていく必要がある。社会福祉法人等では盛んにボランティアを受け入れているが、案外働いている人自身がボランティアに参加するということは少ない。社会福祉法人で働いている人が自分でボランティア活動に参加することが実際には少ないが、参加してみるとボランティアに来てもらっている人の気持ちがわかるということもある。障がい者サービス、高齢者サービス、保育園に携わる職員等が参加してみると良いということを提案してみたいが、福祉系の学生は激減しているのでなかなか難しい。
- 会長：以前は青年学級で経験を積んだ福祉系の学生が施設に就職するということがあったが、逆に社会福祉法人等で働いている方が青年学級のボランティア活動をするというのは現実的な提案かもしれない。
- 委員：まちチャレで一団体が辞退したということだが、辞退理由は何か。
- 事務局：講師の先生をお一人で考えているということがネックだった。障がい者向けの歌の講座として、生涯学習センター講座としてアイディアは活かさせていただいた。

<市民大学についての説明>

- ・多摩丘陵の自然入門（通年）
 - ・環境講座まちだ de エコツアー
 - ・町田の歴史
 - ・まちだ市民国際学
 - ・人間関係学講座
 - ・“こころ”と“からだ”の健康学
 - ・まちだの福祉
- （説明略）

<質疑・応答>

【事前質問】2016年度、2017年度、2018年度上半期における市民大学、公民館、ことぶき大学のすべての講座の受講者と選に溢れた応募者の両方の過去受講回数毎の人数を教えてください。過去受講回数とは、その講座の受講回数ではなく、生涯学習センターの主催する何らかの講座を受講した場合の回数。例えば、過去受講回数=0とは、初めて受講の応募をした人を示す。過去受講回数=1とは、その講座は初めてでも他の講座に1回出たことがある人を示す。

事務局：このご質問にお答えできるようなデータを揃えることができない。

会 長：2016年度、2017年度、2018年度上半期における市民大学、公民館、ことぶき大学の受講者を、どのようなルールで決定しているか。

事務局：市民大学についてはどなたでも申し込みができる。ただし、定員を超えた場合は市内在住・在勤・在学を優先させる。

ことぶき大学は、60歳以上の市内在住者を対象として募集し、応募多数の場合は、前年度に参加していない人を優先してコンピューターで抽選を行い決定する。落選者には、定員に達していない講座を紹介している。

公民館事業については、イベントダイヤルによる受付や、直接生涯学習センターで応募受付を行い、ほぼ先着順で決定しています。

委 員：生涯学習センターはあまり知られておらず、利用されていないようだが、まず、データが揃えられないのと、データがあるのかないのかは違うので、データがあるのかどうかを教えてください。「初めての人である」とか、「過去の受講履歴」という話が事業報告で述べられているのだから、何らかのデータはあるはず。そうでないと、ロジックが合わない。普通の会社であれば市民は「お客さん」である。センターの認知度を上げるためにも、溢れた人に対してどういうケアをしているのか、ということである。ホームページを調べてみたら、半分以上の人が溢れていて、募集69名に632

人の応募があり、563人溢れているという講座もあった。この溢れた方にどういうケアをするのか。「今回は抽選に漏れました。過去の受講履歴がないので、また次回お申込みください」、これでは広まらないのではないかと。認知度も上がらない。センターでやっている講座を皆さんに幅広く受けてもらって、より良いものにしていくということについて考えるのであるならば、この点を考えなくてはだめではないか。ニーズをどのように吸い上げていくのか、という説明で「アンケートを見てやっている」ということであったが、選択されて受講することが出来た人のアンケートだけを見て、何がわかるのか。

事務局：応募に漏れた人のアンケートもとるべきということか。

委員：もちろんそれもあるが、受講して感動しなかった人は、たいして何も書かない。満足した方の結果だけを載せて事業報告とすることが、本当にそれで良いのか、という指摘である。ルールや仕組みづくりを明らかにした方が良いのではないかと指摘である。

会長：ではご質問を整理したい。まずデータがあるかどうかだが。

事務局：データは講座ごとに参加した人の人数はある。申込者のデータは5年で消し、個人情報問題があるので、名前ごとのデータ集積はしていない。

委員：名前だけでなく、匿名化すればよい、番号を付番するでもよい。いくらでも方法がある。懸念しているのは、限られた人だけが受講しているのではないかとということ。落ちたからその後のケアがないから「面倒くさいからもういいや」という人が出るのではないかと。市民目線で考えてもらいたい。

事務局：具体的なケアの方法はあるか。

委員：色々あると思う。3分で説明するのは難しいが、それはまた別の場でもよいと思う。データでは半分以上も溢れている。

事務局：市民大学の半分くらいは定員を超えているが、なかなか人が集まらない講座もあり、確かにその辺の認識はなかったと思う。

会長：応募した方が出来るだけ受講できるような仕組みづくりを、というご指摘である。コンピューター上で考えられるということであれば、その辺のお知恵も拝借していきたい。

委員：コンピューターでやっているとおっしゃったが、市民大学についてだが、何度も当選している人もいれば、初めてなのに落ちることもあって、本当にコンピューターで抽選しているのか不思議だった。何か、どこかで操作されているのかとさえ思われ、公平だと言われても何か違うような気がしていた。

それから、“こころ”と“からだ”の健康学の前期を受講した。やっと当たったので初めて受けたのだが、定員が50人から70人に大幅に増やしたということだが、7階のホールに70人はきつかった。人気の講座だから人を増やそうということではなく、受講する側の環境も考えていただきたい。

もう一つは、環境の講座が延期になった件について、担当者が事前に先生に連絡するのが当たり前なので気を付けていただきたい。全員に電話をくれたそうだが、自分の都合に合わず、結局行けなかったという人もいる。受講しに来てくれた方に失礼である。

会 長：同様のご意見が他にもでていた。受講者の立場に立って業務を進めていただければと思う。定員の変更についても、アンケート等の意見を参考にしていきたい。

会 長：市民大学のプログラム委員は今年度からは新しいメンバーで進められているが。

事務局：選任要綱を作り変えて5年の任期とし、ちょうど5年経ったところである。

会 長：再任でやられていた方がここで新しいメンバーになったり、定員の見直しがあったりしたところもあるか。

事務局：陶芸講座が終了し、自然・環境についてはプログラム委員と一緒に考えるというところでやっている。プログラム委員は、修了者団体から互選いただいた。

会 長：条件に合う方が減っているのでは？

事務局：修了者団体が減っているので、人数も減ってきており、委員の選考については今後の喫緊の課題である。

委 員：市民団体の出口がないことが問題になっていると思うので、今ある団体のPRをもっと行ってもよいのではないか。講座の終了後修了団体のPRをしているか。全ての団体に声をかけて、日時に調整可能な団体に来てもらおうと良い。歴史は修了生団体に5名入ったというが、今後は修了団体が少なくなっているなので、座学があるときに既存の団体のPRを行うとよいと思う。

会 長：プログラム委員の考えがあるだろうが、何らかの形で講座の中で時間を設けて、既に活動している団体の紹介や情報提供があってもいいかと思う。

その他質問はあるか。

委 員：せっかく事業分析の時間なのだが、定員・倍率・応募者数だけでは見えてこない。数字が悪いと思う。リピーターは何割で何パーセントなのか、新規受講者率は何パーセントといったように、新しい尺度を入れたほうが良いという提案である。

委 員：自然入門の中に子育て世代が入っていけるとするのはとても良いと思った。行政が他でやっているボランティアを紹介するといいいのではないか。市が行っている間伐ボランティア※もあるので、他の部署と協力していくのもよい。(※北部丘陵整備課が行っている、間伐体験ボランティア「木こり応援隊」のこと。)

<ことぶき大学についての説明> (略)

- ・オリンピックコース「オリンピックを哲学する」
- ・音楽コース「なつかしい歌をうたって、声の力でエネルギーになりましょう！」

<質疑・応答>

委員：オリンピックコースは、時まさにオリンピックという時期にあっていて大変面白いと思ったが、倍率が0.65倍というのは、初めての試みということ、またことぶき大学の受講者の年齢対象層が60歳以上ということもあってこれから練り上げていく必要もあると思う。一方で音楽コースは2.69倍と大変人気がある。そうであるならば、何故音楽コースを、曜日を変えてもう一度行わないのだろうか。講師は講座を修了した市民でもよい。市民センターのホールや学校の体育館等もっと大きな会場で行ってもよい。もっとチープなものでも構わないので地域の方に向けて何回もやる方が、市民ニーズなのではないかと思うが。

委員：「合唱」等はいろいろな方面で既にやっているので、ことぶき大学でとりあげなくても、例えばまちチャレでもいいが、やってくださる方はいっぱいいると思うので、色々なところで行えるように紹介するとよいのではないか。健康の「スポーツ」や「歌」は地域でやりやすいし、受講者も参加しやすいものである。玉川大学・桜美林大学等の先生も市内でいろいろ講座をやっている。ニーズがあると思うので、ことぶきの事業でやる必要があるのだろうか、と思う。

環境講座で講師の方が来られなかったのは、前日に連絡をすれば回避出来た事と思うが、講師が来る途中に怪我をされて急に来られなくなるということもあり得る。そのような時のために、ピンチはチャンスと捉え、自前のスタッフで、去年の資料等を使って説明するなど、何か常に第2案は持っておくとよいと思う。

会長：何か工夫を考えるとよいかもしれない。

<生涯学習推進事業についての説明>

- ・学習情報の収集・発信「生涯学習 NAVI」、「2017年度事業報告書まちだの学び」の発行
 - ・学習相談「施設利用やサークル活動に関する相談等」
 - ・生涯学習ボランティアバンク
 - ・連携組織 「さがまちコンソーシアム」主催の「さがまちカレッジ」
- (説明略)

<施設貸出事業についての説明>

- ・生涯学習センター（ホール・諸室）
 - ・特別教室（本町田小・木曾境川小・小山ヶ丘小）
- (説明略)

<質疑・応答>

事務局：事前質問の中で、特別教室の拡大と利用率の低さについてご指摘をいただいたが、学校の施設を開放するためには普通教室への立ち入りが無いよう、区画を区切って設備的に整える必要があるので、新しい学校を建てる、あるいは建て替えといった機

会がないと、増やしていくことは難しい。利用率を伸ばすためには、地域にピンポイントで普及を図る必要があるが、鶴川中学校などでは副校長先生が地域の方に積極的に利用を促していただくことによって高い利用率となっている。今後も普及につとめて参りたい。

会 長：NAVI について、事前にご質問があり事務局から回答が出されています。

委 員：ここに来るまで私は NAVI を見たことがなかったが、作成単価 1 冊 400 円、これは雑誌が一冊買える価格である。NAVI についてご報告を受けたが、この現状について問題意識は何もないのでしょうか。アンケートからもわかるように、見る人が少なくなっていて、毎年 800 万円近くかけている。この現状に対する問題意識を問いたい。

事務局：紙媒体はコストが高いというご指摘はあると思う。電子での発信については、ポータルサイトの構築に向けて数年前に動いたところ力及ばずという状況である。

委 員：社会福祉協議会のボランティアセンターとの連携はしないのか。同じ人が登録しているので、情報を共有してボランティアごとに整理ができると良いと思います。ボランティアという人財なので、将来的に連携ができるように考えて欲しい。

委 員：この運営協議会は市民目線で良くしていこうという会だと思う。協力していくために、強いところは伸ばし、弱いところを補佐していくことだ。何か弱いところの話ばかりだが、生涯学習センターの事業は他市と比べて決して負けるものではないと自負している。強いところの話もしてもらいたい。何か、弱いところばかり話していると、「これだから生涯学習センターはいらない」となってしまう恐れがある。どうか良い部分にも目を向けていただきたい。

会 長：確かに青年学級等、全国的に誇れる事業もある。いいところは沢山あるので、課題はありつつも、良いところは盛り上げていきたい。

3 その他

会 長：各委員から提案されたテーマをまとめ、1～8 に分類した。これに基づいて次回話し合いを進めたい。ご意見等いただきたい。

事務局：11 月は生涯学習推進計画を今年度中に策定するという事で原案を作成している。次回の委員会の中で経過をご覧いただいて、ご意見をいただくということをお願いしたい。資料は事前に配布する。

<その他の意見等>

委 員：NAVI について、家にネットがない人やインターネットの使えない方、若年者もいるので、現時点では紙媒体は残し裾野は広げたほうが良いと思う。この NAVI が実際どういう風に活用されているか、というのはアンケートだけでは見えて来ない部分もあるので、参加者と直に触れ合いながら得た情報を出していただけると参考になる。

委員：広告収入という意味で紙媒体を残すという方向性もあると思う。

会長：次回の第5回運営協議会は、11月19日（月）午後3時から学習室2で行う。